

授業科目	幼児音楽Ⅰ	2単位	必修	演習	1学年通年	担当 教員	講師 板橋 華子 講師 仲条 幸一			
授業の概要	① 乳幼児の感受性や音楽的表現についての基礎知識を得るとともに、身近な音や素材を使った音遊びや即興的創作表現の体験をする。 ② ソルフェージュ訓練と楽典の基礎理解、歌唱、楽器演奏などを通して実践的な音楽基礎力を培う。 ③ 子どもの歌（わらべうた、童謡、季節の歌、行事の歌、現代の歌など）について知識を得る。作品の情緒や生命感を捉え、わかりやすく歌いかける表現力を養う。 ④ 文化の実践者の一人として、周りの人や生活環境との関わりの中にある音楽経験について考える。									
到達目標		学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 乳幼児の音世界と耳の感受性について学び、子どもの素朴な表現に気づくことができる。					◎	○	◎		◎	
2. 身の周りの音や自然要素に興味を持ち、表現のわかりやすさについて考えを深める。			○		○		◎	○	◎	
3. 音楽素材を使い豊かなイメージを表現するために必要な基礎音楽技術を学ぶ。		○	○		○		○		◎	
4. 各自が一表現者として感性を磨き、美しいものに対する感動や共感の気持ちを持つことができる。		○	○	○	○		◎		○	
5. 音楽的な視点から子どもが楽しめるような遊びを選択したり、創意工夫によってその遊びを応用したりすることができる。保育場面での音楽素材の選択においてそのポイントや美しさ・楽しさ・面白さについて自分なりの考えを述べるができる。			○		◎		◎		◎	○
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はivページ参照										
	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標				復 習			
1	オリエンテーション	シラバスを読んでおく。	授業の進め方および評価の方法を理解する。領域「表現」をどう捉えるかについて概観する。楽典（五線と鍵盤）				学習した楽典の内容を教科書で確認する。			
2	耳をすます 乳幼児の音世界	楽典の内容を復習し速やかに鍵盤と音名の関係がわかるようにしておく。	乳幼児の音世界について知り、子どもと大人の音の聴き取り方の違いについて考察する。楽典（五線と鍵盤）、子どもの歌（4月）				楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。			
3	歌いかける・語りかける 赤ちゃんの好きなマザリーズ	楽典の内容を復習し楽譜と鍵盤の関係について理解しておく。	乳児の好きな音とマザリーズの特徴について理解する。楽典（五線と鍵盤）、子どもの歌（4月）				楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。			
4	子どもの成長 と音楽的な遊び①	大譜表の書き方を復習しておく。	乳幼児の音楽的な遊びの様子をDVD視聴によって確認し、音やリズムと出会う子どもの発達過程について理解する。楽典（リズムと拍子）、子どもの歌（5月）				楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。			
5	子どもの成長 と音楽的な遊び②	音符の種類とその音価について復習しておく。	乳幼児の音楽的な遊びの様子をDVD視聴によって確認し、音やリズムと出会う子どもの発達過程について理解する。楽典（リズムと拍子）、子どもの歌（5月）				楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。			
6	モノと身体、楽器で遊ぶ①	拍子について復習しておく。	身近にあるモノや自分の身体からでる音の面白さを味わう。楽典（リズムと拍子）、子どもの歌（5月）				楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。			
7	モノと身体、楽器で遊ぶ②	様々な拍子の曲を聴いておく。	身近にあるモノや自分の身体からでる音の面白さを味わう。楽典（リズムと拍子）、子どもの歌（6月）				子どもの歌を復習する。			
8	モノと身体、楽器で遊ぶ③	リズム譜の課題に取り組む。	モノと身体、楽器を使ったアンサンブルをする。楽典（リズムと拍子）、子どもの歌（6月）				子どもの歌を復習する。			
9	モノと身体、楽器で遊ぶ④	リズム譜の課題に取り組む。	モノと身体、楽器を使ったアンサンブルをする。楽典（リズムと拍子）、子どもの歌（6月）				子どもの歌を復習する。			
10	音楽と身体性	リズム譜の課題に取り組む。	音楽に乗って動く体験を通し、内的聴感と身体反応の実感的な理解を深める。楽典（リズムと拍子）、子どもの歌（7月）				楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。			
11	歌と子ども① 歌いかける・語りかける	知っている子守歌を歌っておく。	子守歌の特徴や種類について分析すると共に、その歌われ方や養育者と乳幼児間のコミュニケーションに注目する。楽典（わらべうたの音階）、子どもの歌（7月）				子守歌のレパートリーを増やしておく。			
12	歌と子ども② わらべうた・あやうた	教科書の指定箇所を読んでおく。	わらべうたの発生について理解し、その地域性や特徴を学ぶ。楽典（わらべうたの音階）、子どもの歌（7月）				子どもの歌を復習する。			
13	歌と子ども③ 共に歌うこと	教科書の指定箇所を読んでおく。	歌の始まりと歌の育ちの道筋について理解する。楽典（長音階・短音階、音程）、子どもの歌（8月）				楽典の課題に取り組み、学習した内容を復習する。			

14	歌と子ども④ 共に歌うこと	教科書の指定箇所を読んでおく。	園での歌唱活動の事例に触れ、保育者の役割と配慮や共に歌うことについて理解を深める。楽典（長音階・短音階、音程）、子どもの歌（8月）	楽典の課題に取り組み、学習した内容を復習する。
15	歌と子ども⑤ 心の響きあい	教科書の指定箇所を読んでおく。	子どもの歌声に何を求めるかについてディスカッションをする。保育における歌の歴史を理解する。楽典（長音階・短音階、音程）	授業のテーマを振り返り考えたことをまとめておく。
16	音環境①	教科書の指定箇所を読んでおく。	サウンド・スケープの概念について知識を得る。楽典（和音）、子どもの歌（9月）	楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。
17	音環境②	教科書の指定箇所を読んでおく。	サウンド・スケープの概念について理解を深め、保育現場の音環境について考察する。楽典（和音）、子どもの歌（10月）	楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。
18	音環境③	教科書の指定箇所を読んでおく。	様々な音の聞き方があることを意識し、幼児と音の関わりや音遊びについて知識を得る。楽典（伴奏パターン）	楽典の課題に取り組み。
19	音環境④	教科書の指定箇所を読んでおく。	様々な音の聞き方があることを意識し、幼児と音の関わりや音遊びについて知識を得る。楽典（伴奏パターン）	楽典の課題に取り組み。
20	アンサンブル①	アンサンブル譜の自分のパートを読んでおく。	トーンチャイムのアンサンブルに取り組み。楽典（和音と伴奏パターン）、子どもの歌（10月）	楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。
21	アンサンブル②	アンサンブル譜の自分のパートを読んでおく。	トーンチャイムのアンサンブルに取り組み。楽典（和音と伴奏パターン）、子どもの歌（11月）	楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。
22	アンサンブル③	発表に向けて練習をしておく。	トーンチャイムのアンサンブルに取り組み。楽典（和音と伴奏パターン）、子どもの歌（11月）	楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。
23	発表会	発表に向けて練習をしておく。	トーンチャイムの音の響きを味わい表現する。楽典（コードネーム、アレンジの方法）、子どもの歌（12月）	楽典の課題に取り組み、子どもの歌を復習する。
24	子どもの姿にみる創造性	教科書の指定箇所を読んでおく。	生活と遊びに見える乳幼児の探求と創造性について考えを深める。楽典（コードネーム、アレンジの方法）、子どもの歌（12月）	授業のテーマを振り返り考えたことをまとめておく。
25	アレンジ①	教科書の指定箇所を確認しておく。	課題のメロディに合わせたピアノ伴奏をつくる。子どもの歌（1月）	作った伴奏をピアノで弾いておく。
26	アレンジ②	教科書の指定箇所を確認しておく。	課題のメロディに合わせたピアノ伴奏をつくる。子どもの歌（1月）	作った伴奏をピアノで弾いておく。
27	アレンジ③	教科書の指定箇所を確認しておく。	既存のメロディを1つ選び、自分なりのピアノ伴奏をつくる。子どもの歌（2月）	作った伴奏を楽譜にし、ピアノで弾いておく。
28	アレンジ④	発表に向けて練習をしておく。	既存のメロディを用いて自分なりのピアノ伴奏をつくる。子どもの歌（2月）	作った伴奏を楽譜にし、ピアノで弾いておく。
29	アレンジ⑤	発表に向けて練習をしておく。	作った伴奏で弾き歌いの発表をする。	自分なりに作った伴奏の弾き歌いを振り返る。
30	まとめ	これまでの講義内容について振り返りをしておく。	子どもの音楽性を支える保育者の援助について考えをまとめる。子どもの歌（3月）	子どもの歌を復習する。
成績評価	課題・授業への取り組み（50%） 期末試験（50%） 合計 100%			
教員からのコメント	乳幼児の感受性は人の土台を作る大切な働きをします。音楽は文化や言葉、国境を超えて心に作用するコミュニケーション法であり、子どもと音・音楽がどのように出会うのか、そして子どもの表現がどのように受け止められるのか、小さな日常の場面における保育者の感性と人間力が大きく問われてきます。子どもたちと心から楽しんでその時間を過ごすことができることを願い、授業では理論と実践での多角的な理解を目指します。ユーモアを持って工夫しながら確かな実力を身につけてください。第1回授業で説明しますが、授業で使う五線ノート（A4サイズ10段または12段推奨）は各自用意ください。			
教科書	書名 幼稚園教諭・保育士・小学校教諭養成課程用 音楽を学ぶということ これから音楽を教える・学ぶ人のために 著者 今川恭子 ほか 発行所 教育芸術社 書名 おながくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論 著者 今川恭子 志民一成 木村充子 ほか 発行所 教育芸術社 書名 改訂 幼児のための音楽教育 著者 神原雅之 鈴木恵津子 ほか 発行所 教育芸術社	推薦図書	授業の中で随時紹介する。	

